

認知症作業療法 活動報告（概要）

福岡県作業療法士会では、保健福祉部内に認知症作業療法推進委員会を設置し、保健福祉部理事を含めて6名で活動をしている。活動は、「認知症アップデート研修」をはじめとした研修の開催、会員に対する最新知識の普及活動を実施している。今後は、地域活動などとのつながりを深め、並行して、地域活動が出来る作業療法士の育成、県士会員のつながりの強化を図る活動を継続的に実施していきたい。

会員向け研修 事業

認知症アップデート研修の開催

2019年度は認知症アップデート研修を1回開催した。これまで3年間で、合計4回の開催となり、修了者は320名となった。2020年度は、WEBでの開催を予定しており、現在調整中である。

応用研修「地域における認知症作業療法」の開催

令和2年1月26日に「地域における認知症作業療法」研修を開催した。内容は、県庁の福岡県保健医療介護部 地域包括ケア推進課 在宅介護・予防係長による「認知症施策推進大綱と福岡県の認知症対策」に加え、地域事業に取り組まれている作業療法士に「認知症カフェ」「認知症にやさしい図書館」について講義をして頂いた。



市町村事業などへの協力体制構築 事業

各市町村での協力体制の構築を目指し、認知症関連の地域事業の状況把握を適宜、実施。また、行政から協力依頼があった際は、スムーズに人材派遣が行えるように、体制を検討中。市町村事業における作業療法士が協力している一例を紹介する。

「認知症の人にもやさしいデザインガイドライン策定委員会（福岡市）」

福岡市の「認知症の人にもやさしいデザインの手引き」の作成の策定委員会に会員1名が委員として協力した。手引きは、認知症の人を含む多くの方が、より過ごしやすい環境を整える30のポイントをまとめたもので、認知症の人が居住されるご自宅や施設等だけでなく、外出先などの多くの建物で認知症の人にもやさしいデザインが取り入れられ、認知症の人が暮らしやすい環境の整備を促進することを目的として令和2年3月に策定された。手引きは、福岡市のホームページからダウンロードできる。



認知症・草の根ネットワーク(北九州)への協力

認知症・草の根ネットワークの活動は主に認知症カフェモデル事業の運営など。現在、2名の作業療法士が理事として活動をしている。

今後の展開

- ・ 会員向け研修の開催（アップデート研修と地域事業参加者養成研修）
- ・ 地域ケア介護などでの認知症の人への助言の視点の整理と人材育成
- ・ 市町村事業への協力体制の構築